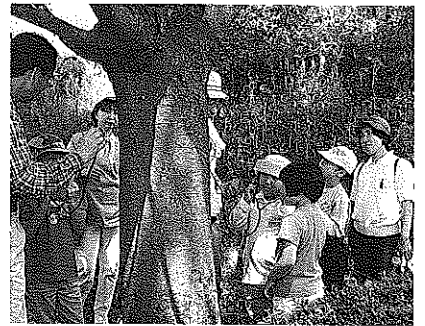


# 林業とくしま



森林・林業や農山村の現状の理解と共に今後の森づくり運動の推進を図る目的で、去る5月28日、神山森林公園において「ときめきダンスカンパニー四国」の会員を対象にして森林教室が開催されました。

当日は、子供から大人まで66名の会員が参加し、森林散策や林業体験で汗を流しました。



「森と人のきのう・きょう・あした in 神山森林公園」



「誇りです

緑あふれる この町が」

(平成12年徳島県緑化標語優秀作品)

勝浦中学校3年

美馬希美さんの作品

No. **253**  
2000.8



# 若い後継者づくりに 向けて

(有)希林 代表取締役  
川島地区林業指導者会会長

## 和 泉 隆 啓

我が社が活動している麻植郡美郷村は、徳島県のほぼ中央、吉野川にそそぐ川田川の上流に位置し、四国山地の山稜に囲まれ清流にはホタルが舞い、森は深く緑におおわれた静かな山村です。総面積五〇四七haの内山林が四〇七七ha(八一%)をしめ人工林率六四%で県中部では、比較的林業の盛んな地域に位置しております。

この山林を利用し林業の活性化を図りたく平成十年四月に村内の林業者二社、製材業者一社、建設業者一社の計四社が出資し(有)希林を設立しました。その目的は、若い後継者づくりにやはり会社を法人化し社

会保険制度の加入、賃金の月給制、労働時間や休日の整備を図らなければならぬと考えたからです。その結果平成十一年十月に開催された、県U・イターン林業合同説明会に参加させていたことが出来、今年一月より二名のイターン者が家族を連れ現在村内に住みながら林業作業に従事してくれております。

また会社を法人化する一方、これからの素材生産の事業量の確保や機械化を進めていく為に平成十一年六月に我社も含め阿波麻植郡内の八社が出資し阿波麻植素材生産協同組合を設立し、素材生産事業の共同受注、高性能機械の共同購入や共同利用また立木の共同購買などを図って行っております。そしてこの組合を中心として村内の間伐材の小径木を利用し、土木用の杭木、横木作りを雨降対策として行っております。

今後はもう二、三人のU・イターン者を新規採用し、将来はこの人たち一人一人が各自の林業事業体を設立してもらい若手労働者を雇用し林業の活性化を進めてもらいたいと考えております。

### も く じ (林業とくしま 253号)

やまびこ(若い後継者づくりに向けて).....	2
鉄人コーナー(作業道に情勢かけて)..... (子供を育む植物園を目指して)	3
林政の窓(平成12年度林業関係予算).....	4
特 集(森林再生への提案「特定間伐」).....	6
林研とみんなの情報交流コーナー.....	8

技術情報(続・シカによる林業被害対策について)...	10
阿波だぬき(眉山ウォーキング).....	12
東西南北.....	13
ご案内.....	15
広 告.....	15

## 作業道に 情勢かけて

阿南市

### 宇川清一氏

今回は、阿南市の宇川清一さんを紹介いたします。宇川さんは阿南市に住んでいらつしやいますが、よほどの悪天候でない限り、毎日往復三時間以上かけて、木沢村のスーパ―林道沿いにある自分の山林に通われています。

木沢村は非常に地形が急峻なため、路網の整備が十分とは言えません。宇川さんの山でもスーパ―林道が通っていますが、きめ細かな作業を行うためには、林道からの支線が不可欠です。

そこで、宇川さんは、自分で機械を購入し、独学で作業道の開設を始めました。

線形の取り方など、わからないことが多く手探りの状態で始められたようですが、初っぱなからよくこのような急な山に自分で道をつけるものだというのが正直な感想でした。

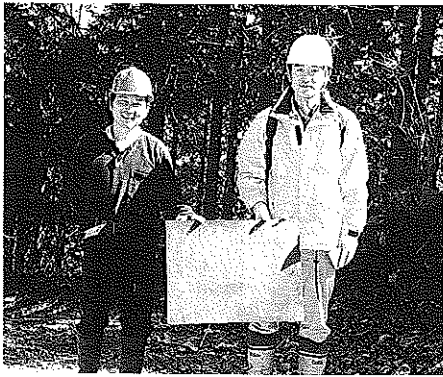
かなりの苦勞をされたようです

が、持ち前の熱心さと上那賀町の林業経営士である橋本光治さんのアドバイスを受けて、短期間にみるみる上達し、その開設延長も伸びてきました。

既に、千二百メートルの作業道を開設しており、今年度も八百メートル程度開設するそうです。

これからは、自然にやさしい道づくりを目指すだけでなく、作業道を利用した間伐など森林づくりにも積極的に取りかかるといっています。

また、樹木医など多方面の活動にも興味を抱いており、その情熱は並々ならぬものがあり、今後の活躍が大いに期待されます。



左側が宇川さんです

## 子供を育む 植物園を目指して

神山町

### 杜 性次 カツエ 御夫婦

神山町上分でもり植物園を開園している杜性次、カツエさんご夫婦をお訪ねしました。杜さんは、石井小学校の校長先生を退職後、故郷の神山町へ帰ったときに、故郷の自然も大きく変わり、若い時には、沢山あった植物も随分少なくなつたと感じられたそうです。そして、若い時に培った植物学の知識と植物の生育に適したこの土地を活かし植物園を造り故郷の植物を残したいと、平成五年に「もり植物園」を開園したそうです。約二haある園内には、日本一のメタセコイヤ(樹高四〇m、幹周四m)をはじめ約六五〇種を越す植物があり、散策道や東屋も整備されています。植物園造りの方針は、地域の自生植物を保存することを第一に、四季を通して花が咲き景観的にも美しく、青少年を中心に多くの人々に愛され役立つ植物園を目指しているそうです。

「もり植物園」は、散策するだけでご夫婦の暖かい心遣いが至る所に感じ

られ、大変好評で、今では県内外から年間千人もの来園者があるそうです。特に植物に親しみ関心を持つ児童を育成するために行っている植物観察会も今年で十年目だそうです。この広い園内の管理を、ご夫婦だけでやっておられると聞き大変感銘を受けました。杜さんは、八六歳とご高齢ですが、毎日の管理作業で体を動かすことと園内にある薬草とが健康維持の秘訣だそうです。「人は希望ある限り若く、失望と共に老いる」の座右の銘のとおり今日も若々しく植物を育てておられます。



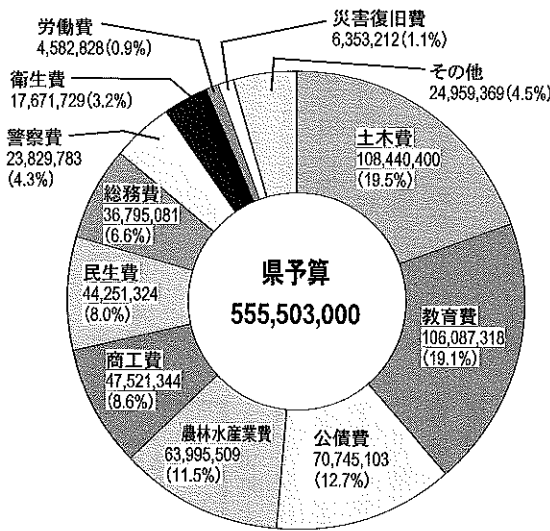
# 平成十二年度林業関係予算 「主要新規事業の概要」

図1 活力と個性あふれる農林水産業 農産漁村の創造(森林・林業)

(予算額 21,632,324千円)  
対前年度比 98.2%

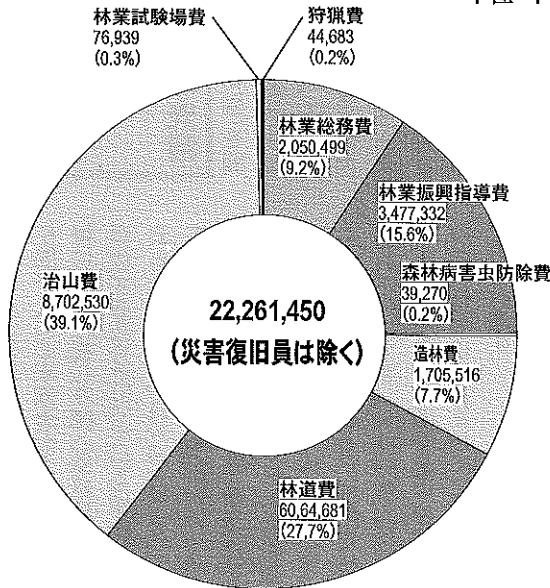
1	人づくり・組織づくり 林業経営の安定化、担い手対策	(858,998千円)86.0%
2	生産基盤づくり 林道開設、機械化等の生産基盤整備	(6,533,569千円)99.7%
3	とくしまブランドづくり 素材生産体制の整備、特用林産物の振興 木材の流通加工対策	(3,163,689千円)91.2%
4	新技術の開発と普及 試験研究、技術開発と普及啓発	(86,924千円)95.7%
5	自然環境を創造する多様な森林づくり 適切な森林整備・保護の推進、保安林の整備 森林空間の総合利用、県民参加の森林づくり	(10,989,144千円)100.6%

図2 平成12年度県予算(当初一般会計) (単位:千円)



森林・林業に関する施策は、平成八年度に策定した「農林水産業・農村漁村振興基本構想」に基づき(図1)、計画的かつ積極的に推進しております。

図3 平成12年度林業関係予算 単位:千円



平成十二年度県全体の当初予算(一般会計)については、厳しい財政状況ではありますが、五五五、五〇三百万円(図2)で、対前年度比は一〇二・七%と伸びています。そのうち林業関係予算については、全体予算の約四%にあたる二二、二六二百万円(図3)で、対前年度比九八・三%と僅かに減少しています。

以下、平成十二年度の主要新規事業について説明します。

一 圃森林経営回帰等促進事業  
六、四三〇千円  
意欲のある多様な人材の森林経営への参入を促進するとともに、林家女性の林業経営への参画、サラーイマン等への働きかけを行い新たな森林の担い手を養成します。また、卓越した高齢者等の林業技術の伝承活動を支援します。

◆ 事業実施主体 県  
◆ 実施期間 平成十二から十六年度



二 圃森人定着支援事業

一、五〇〇千円

林業への就業を希望するU・Iターナー等が山村で定住できるように、空き家等の活用などを含めた住宅確保対策に対して支援します。

◆ 事業実施主体

市町村又は流域林業活性化センター等の団体

◆ 補助率 二分の一以内

◆ 実施期間

平成十二から十四年度

三 圃特定間伐実施事業

一〇〇、〇〇〇千円

三〇ha以上の緊急間伐団地を

設定し、市町村長と森林所有者が間伐実施等に関する協定を締結することを条件に、八・九齢級の森林の搬出間伐に対して助成します。

◆ 事業実施主体

県、市町村、森林組合等

◆ 補助率 査定事業費の七二%

◆ 実施期間

平成十二から十六年度

四 圃調和型林業生産団地育成事業

一、二、〇〇〇千円

生産基盤の整備・生活環境の改善・自然環境の保全などの調和がとれ、活発で意欲の高い林業活動が永続的に行われる林業生産団地を地域ぐるみでモデル的に整備するため、団地づくり活動や林業機械などの施設整備に対して助成を行うとともに、生産・生活基盤の整備を集中的かつ効率的に支援します。

◆ 事業実施主体

市町村、森林組合等

◆ 補助率 二分の一以内

◆ 実施期間

平成十二から十六年度

五 圃木の香る環境整備促進事業

二〇、〇〇〇千円

公共事業での木材利用をより一

層推進するため、間伐材などの生産計画の策定等を行うとともに、木材活用方法の検討、試作品の作成評価を行います。

◆ 事業実施主体 県

◆ 実施期間 平成十二年度

六 圃地域住宅資材利用促進事業

四八、〇〇〇千円

地域の気候風土にあった高性能な地域型住宅での県産材利用のマスタープランを作成するとともに、地域材を活用した品質の高い住宅資材の供給体制の充実と普及啓発を図るため、「徳島県木の家造り協会」を中心に、消費者等に対するセミナー・現地見学会の開催、木材利用技術の情報提供などを実施します。

◆ 事業実施主体

県、市町村、木材関連団体等

◆ 補助率 二分の一以内

◆ 実施期間 平成十二年度

七 圃地域林業経営確立林業構造改善事業

四〇一、〇四六千円

持続的な林業経営の確立に向け、林業経営の集約化、資源の循環的利用、就業者の養成確保などを総合的に推進するとともに、山村地

域の活性化を図るため、都市との

交流施設の整備を促進します。

◆ 事業実施主体

県、市町村、森林組合等

◆ 補助率 十分の七、二分の一

十分の四以内

◆ 実施期間

平成十二から十八年度

八 圃千年の森づくり推進事業

七七、九五五千円

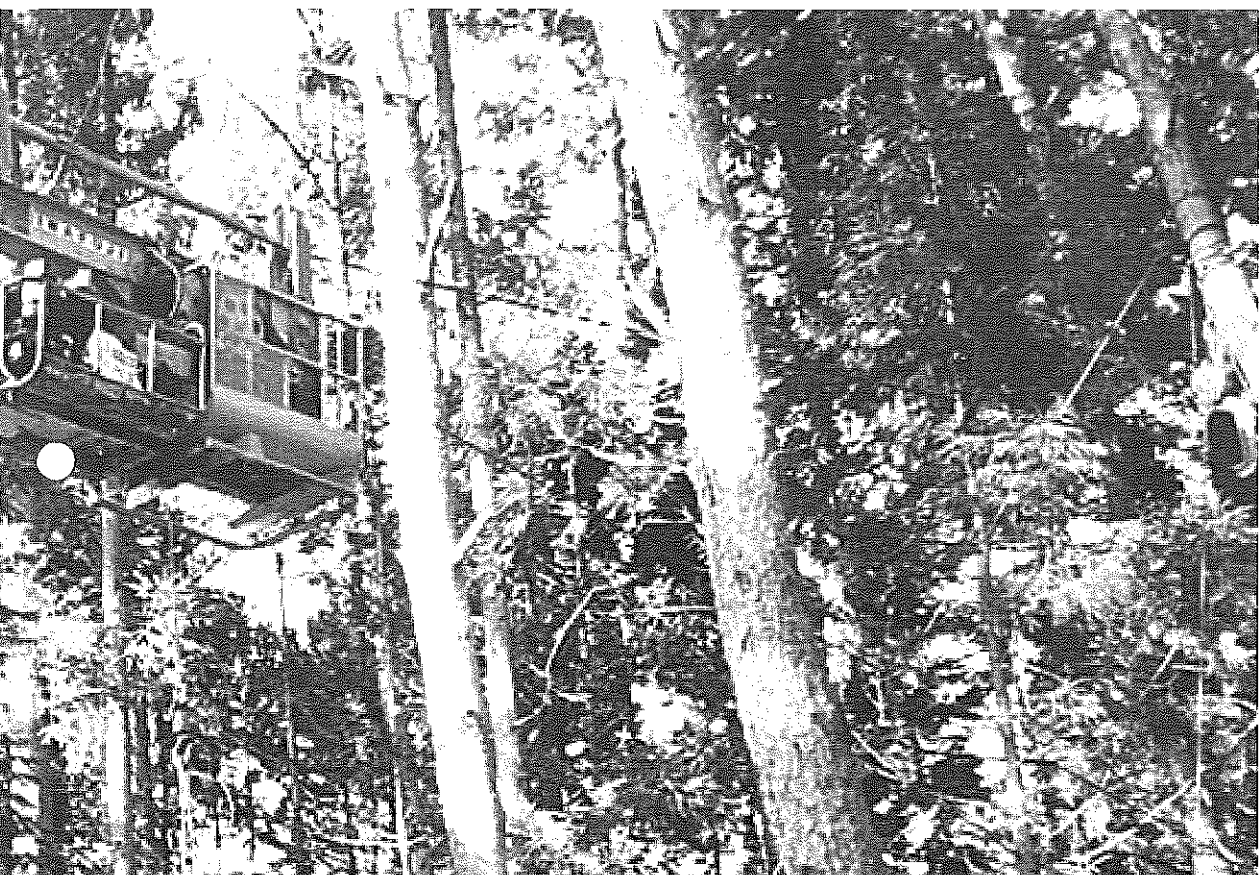
● 森と人との共生をめざす「千年の森づくり」を推進するため、上勝町高丸山周辺を整備するとともに、県民参加型の森林づくり運動を全県的に展開するため、森づくり技術指針の策定、地域に密着した森づくりリーダーの養成、森林フォーラム・体験ツアー等を開催します。

◆ 事業実施主体 県

◆ 実施期間

平成十二から十四年度

(林業振興課企画調整係)



~~「特定間伐」補助対象の条件~~

1. 市町村が設定した団地の区域に含まれること。
2. 市町村と森林所有者が緊急間伐に関する協定を締結すること。
3. 本数で20%以上間伐を実施し、おおむねその80%以上を最寄りの林道等まで搬出すること。
4. 間伐後は、原則として10年間皆伐しないこと。

▲「特定間伐」補助金活用による搬出間伐収支予測 (1ha当たり)

搬出間伐事業費（支出） （間伐から林道等までの搬出経費）		間伐材販売数（収入） （市場への運搬料・手数料等を除く）	
◎ 40㎡×15,000円＝	600,000円	◎ 40㎡×9,000円＝	360,000円
┌ 補助金	468,720円		
└ 負担金	▲ 131,280円		

●最寄りの林道等まで搬出された間伐材は、森林所有者判断でご自由に販売してください。  
（林道からの運搬費からは補助の対象ではありません。）

林業振興課 森林育成係

## 森林再生への提案

今年度から新しい補助事業がスタートします。

# 「特定間伐」

【26～45年生までの搬出間伐の補助事業】

◇「特定間伐」補助金の一例

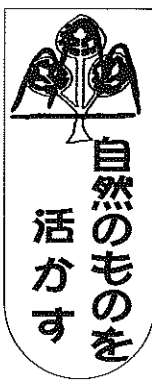
(1ha当たり)

林 齢	作 業 種 別	補助金額(72%)
26～35年生で	間伐+林内作業車で搬出した場合	249,840円
	間伐+集材機等で搬出した場合	377,280円
36～45年生で	間伐+林内作業車で搬出した場合	300,960円
	間伐+集材機等で搬出した場合	468,720円

※ 事業主体により補助金額は異なります。

◎ 詳しい事業内容などの問い合わせは、最寄りの農林事務所・市町村役場・森林組合にお願いします。

# 林研とみんなの情報交流コーナー



**ROOT ARTIST**  
上勝町 松島伯祖氏

勝浦川の上流部、上勝町の生実  
木の根を芸術に変えるアーティスト  
が任んでいます。

その名は「松島伯祖」。長年山仕事に  
携わってきましたが、そのかたわら山  
中にある伐根を採取し、様々な作品  
を生み出してきました。

材料になるのは、ケヤキ、クリ、サ  
クラなどの木であり、普通の人が見  
ればただの朽ち果てた根ですが、芸  
術家はこれにインスピレーションを  
感じ、作品に仕上げていきます。

制作方針としてなるべく手を加え  
ず、小石や土を取り除くぐらいで、  
できるだけ自然のままの形を残して  
いき、見ている人のイマジネーション  
をかきたてるものにしたということです。

現在、氏は直径約二mもある巨  
大なケヤキの根に挑んでおり、この  
作品が近々町内の何処かで展示さ  
れていくことでしょう。また、月ヶ谷

温泉の玄関にも作品が展示されてい  
ますので、近くへ寄ったさいは、ぜひご  
覧下さい。



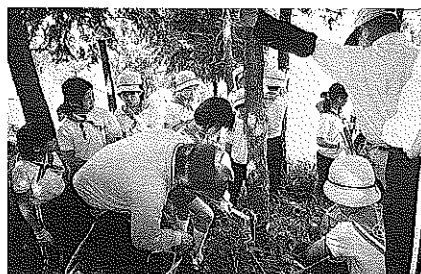
**緑の少年隊と  
いっしょに**

西井川林業クラブ  
森林林業教室開催！

平成十二年六月八日、井川町八  
幡神社において、西井川みどりの少  
年隊を対象に森林林業教室が開催  
されました。

参加者は、みどりの少年隊十四  
名、西井川林業クラブからは宮内  
会長他会員五名、林務課からは宮  
下技師他二名が参加し、森林林業  
の講義と下刈りや間伐の林業体験  
を行いました。  
八幡神社の社は、西井川林業ク

クラブが九年前に全国林研グループ  
コンクールで表彰された年にスギ、  
ヒノキ、ケヤキを植林し、大切に育  
てているものです。  
西井川みどりの少年隊に手入れ  
をしてもらって、明るく見通しの良  
くなつた林内に陽光が差し込み、森  
林の手入れの大切さを理解しても  
らうには格好の体験でした。



**海と山に  
夢いっばい**

間伐材を利用した魚礁づくり  
日和佐町青年林業者会議  
日和佐町青年漁業者会議  
が連携

近年、農林水産業を取り巻く環  
境は厳しく、この状況に対応するには、  
農林水産業者が連携して、異業種  
間をつなぐ新たな取り組みを行う必  
要があるのではないだろうか。

日和佐町では、山で利用されてい  
ない間伐材の有効利用を図り、間伐  
の促進と漁業資源の確保を図るため、  
平成十年度から日和佐町青年林業  
者会議と日和佐町青年漁業者会議  
とが連携し、間伐材を利用して魚礁  
づくりを始めました。

取り組み内容としては、魚礁製作  
設置の勉強会、町有林での両者によ  
る共同間伐の実施、間伐材の玉伐り  
とトラックでの運搬、魚礁の製作、漁  
場への曳航・設置などです。

この魚礁は、高さ約一・三m、幅約  
一・五m程度の井桁の型をしており、  
末口十五cm程度の間伐材を一基あ  
たり十六本使用しています。

間伐材魚礁は、バラバラにならな  
いように金物でしっかりと固定してお  
り、コンクリートブロックを付けて沈  
めています。

設置している海域は、沿岸から約  
二kmの地点の水深約五二mの深さの  
ところです。平成十年度に十基、平  
成十一年度には二十基を設置して



# 林研とみんなの情報交流コーナー

おり、十二年度も二十基程度を設置する予定です。

これまでのところ、間伐材魚礁の製作経費は、一基当たりおおむね四万円程度（漁船による海への設置経費を除く）でした。

魚礁としての効果については、水産試験場などの水産の専門家と相談しながら追跡調査を行うことを計画しています。

この調査結果と魚礁の耐久性などがよければ、この取り組みを試験段階から事業化したいと考えています。

間伐材の魚礁により、間伐材の新たな利用が拡がることを期待しています。



## 美郷村林業同友 クラブ機械化部会

去る六月美郷村の河野会長宅において、同会の平成十一年度決算及び平成十二年度簡易作業道開設要望ヒアリングが行われました。当日は、正会員十一名、準会員三十名のほとんどの会員が集まり盛況となりました。

ヒアリングの結果、平成十一年度の開設実績五km十四路線に対して要望量は十一km二七路線と大幅な増加となりました。ヒアリング後に美郷村産業課より村の森林整備事業の取り組みについてまた、林務課普及員より特定間伐事業と作業道の維持管理についての説明をおこないました。村内十三地区で締結されている森林施業の実施協定地における路線も多数あり、共同化を図りながら効率的な施業を実施し、健全な森林の育成に努めて欲しいと思います。

会員からは予算の充実と、この会を利用したチェンソーの使用方法やメンテナンスの研修会開催の要望がありました。



## 相生町やまびこ会

やまびこ会では、はつらつ林研活動促進事業の一環として、今年三月九日に京都府舞鶴市の女性林研グループ「あすなろ会」の視察研修を行いました。

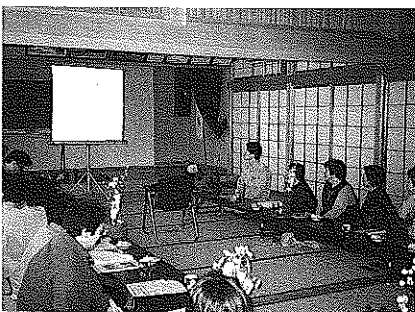
あすなろ会は森林組合の女性作業班員九名で構成されており、平均年齢は六十歳を超えています。

しかし、六m程度の枝打ちやチェンソーを使った伐採などを行う会員もいて、そのチャレンジ精神には感心しました。

また、あすなろ会では、コナラの原木を使用したマイタケ栽培や藤かざらを使用した工芸にも取り組んでいます。マイタケは、既に市場に出荷していますし、かざらは物産展に出品したり、バスケットづくり教室を開くなど、人気を集めているそうです。

視察当日には、かざら工芸の指導を受けましたが、懇切丁寧な指導で時間が経過するの忘れ、作品づくりに没頭しました。

これからもあすなろ会に負けないよう取り組んでいきたいと考えています。



# 続・シカによる林業被害対策について

林業総合技術センター  
保護科長 吉村武志

## はじめに

野生獣類、特にシカによる林業被害対策として現在、森林施業による生息地の管理、シカの個体数調整による管理、さらに柵やネット等による直接的な防除が考えられます。前回(No.二四八 一九九九・三)は直接的な防除方法として、ツリーシールドや防護柵等の種類、その特徴を中心に解説しましたが、今回も引き続きこれら資材について、当センターのこれまでの試験結果と、現在実施中のものも含め報告します。

## ◆チューブ資材の検討と効果調査について

ヘキサチューブ、ラクトロンネット、トリカルネット及び防風ネット及び防風ネットの四種類の資材を使って、主に苗木の樹型について調査しました。

その結果、防風ネットは樹型異常の発生度が非常に高く、一方、ヘ

キサチューブは一番小さかったものの、樹高と肥大成長とのバランスが悪いという傾向が見られました。残りはこれらの中間的な傾向を示しました。

ネットタイプは苗木の外部環境を遮ることなく、しかも軽量で扱いやすいという利点がありますが、資材によっては曲がり等の樹型異常を起こしやすくなります。また、トリカルネット(二十mm目)は、枝が網から突き出ることによって大きな曲がりが発生しやすく、逆にラクトロン(二mm目)は、隙間が小さいことから樹型異常が出やすいという結果になりました。特にヒノキは顕著でこの場合、三十cm幅程度の空間を確保した、ゆつたりサイズのものの方が良いようです。

これまでの試験から、各資材の現段階での評価をまとめますと次のようになります。

◎ヘキサチューブ：耐久性は現

在のものはかなり向上している。樹型異常は四タイプでは最も小さいが、成長のバランスが悪く、ほとんどの苗木が支柱を必要とする。価格も最も高い。

◎ラクトロンネット：今回使用の十七cm幅のものは、樹型異常を起こしやすい。

◎トリカルネット：樹型異常は小さいが、一旦異常が起こるとその度合いは大きくなる。

◎防風ネット：樹型異常、成長面からもチューブ資材には適さない。

以上、チューブ資材について述べましたが、一部の資材につきましては、今後も試験を継続します。

## ◆防護柵について

現在、県南地方を中心に数種類の柵を設置し、防護資材としての耐久性や防護効果を試験中です。シカによる破損以外にも経年変化による破損、設置後の柵高の変化量、さらに苗木の食害状況等も調査しています。

防護柵は適正に設置されれば、シカ被害に最も有効な手段といわれておりますが、それだけで問題が解決できるわけではありません。

また、防護柵の設置と維持には多大な経費がかかり、費用対効果の面からも林業家への心理的な負担は大きく、今後とも資材と設置方法の検討に取り組む必要があると考えています。

## ◆新植造林地での被害状況と時期別被害について

シカによる林業被害が発生している市町村での新植造林地を対象に、農林事務所のご協力を得て被害調査を実施し、被害区分図を作成しました。(図・1)。

図-1 シカによる林業被害区分図

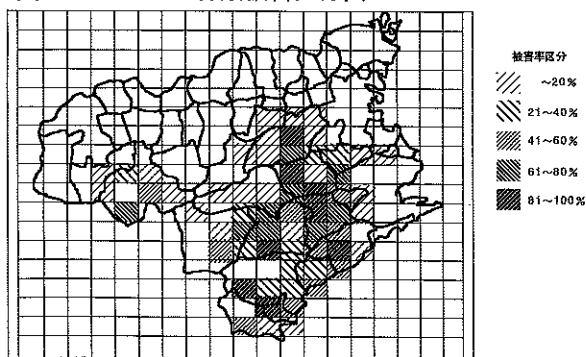
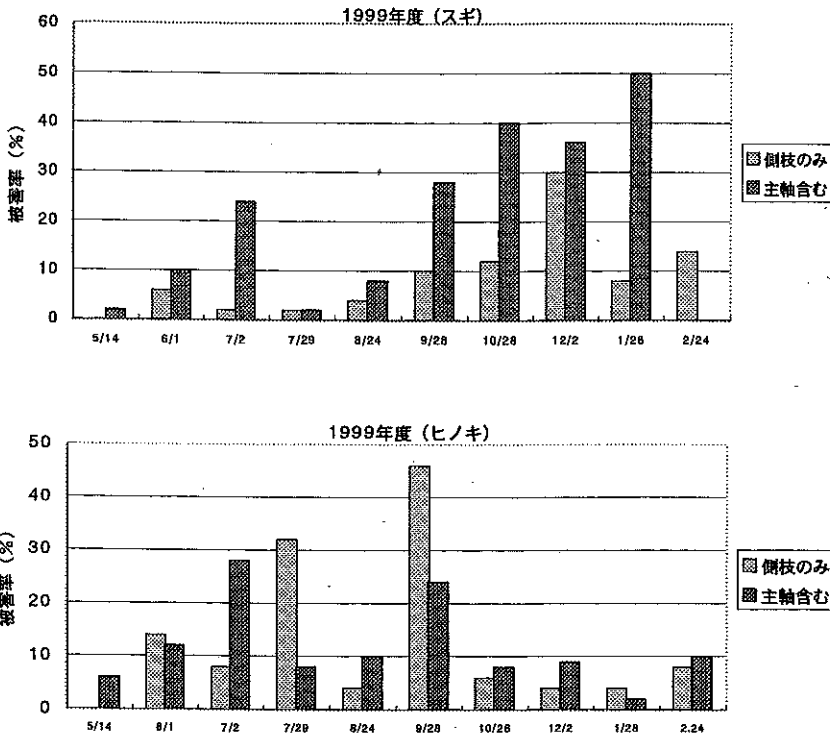


図-2 時期別被害



これで見ると限りでは県南部での被害率が高く、また被害は県西部にも及んでいるという大まかな傾向はつかめると思います。これにつきましても継続調査し、より精度の高いものにしていく予定です。

次に時期別の被害調査を九十七年度から実施していますが、ここには九十九年度分のみを示しました。(図・2)

これによりまずと年間を通じ被害が見られますが、傾向としては春先よりも夏から秋に多く、また、最初はヒノキを多く摂食し、入れ代わるようにスギが多くなっています。

◆シカの歯の年齢査定について

シカの個体群の動向を予測し、適切に維持管理していくための一つの指標とすべく当センターでは、猟友会並びに農林事務所のご協力により、シカの第一切歯(下顎前歯)の提供をいただいています。これまで三〇〇個体以上が収集され、そのうち七十五個体について年齢査定をしました。その結果、本県のシカは比較的若い個体群で構成されていると推定されますが、乳歯を持つ個体を最初に査定したこともあり、実際の比率は全査定結果を待たねばなりません。

◆おわりに

前回も述べましたが、我が国のような環境では、鳥獣による被害を完全に無くすることは非常に難しいと言えます。なぜならば、高い人工林率それ自身が被害の発生を多くしているし、また農林業は本来、張り巡らされた柵の中で展開されるべきものではないからです。

そこで、鳥獣の持つ資源的価値や森林生態系で果たす役割も踏まえ、森林を持続的に利用しようとするならば、ある程度の被害は許容し共存を指向するという、総合防除的な考え方が求められてきます。前述のようにシカの場合、確かに防護柵には高い防護効果が期待できますが反面、無秩序な設置はシカを排除し生息地を奪うことにつながります。

次年度から本県でも「シカ保護管理計画」が始まる予定です。より良い共存のためにはまた様々な解決すべき課題があり、その中で防除・保護管理体制の整備を図らなくてはなりません。今後とも関係者皆様のご理解とご協力をお願いします。



# 眉山ウォーキング

林業総合技術センター

所長 金井良彦

平成六年の春に大病を患って、その翌年何か運動をしなければと始めたのが、ウォーキングであり、そのコースとして西部公園～眉山、いわゆる「西部公園パークウェイ」を歩くことであった。

かつて自衛隊が開設した有料道路で、幅員も狭く、カーブも多く、勾配のきつい所が何箇所もある。このような市道だから車の交通量は比較的小さく、万一、歩行中に我が身に何かが起こったとしても、通りすがりの車に助けを求めることが出来ると思い、「西部公園パークウェイ」が私に向いていると思った。

また、距離的に片道約四km、高低差約二〇〇m、登りに約一時間かけて眉山山頂のパコダまで行き、復路は約五十分で西部公園まで戻ってくるという行路である。

しかし、この市道は狭いけれども木々が生い茂っているため、比較的

涼しく感じ、気持ち良く歩くことができるが、山頂では汗をかいているので、シャツを取り替えなければならなかった。結局、平成七年は九回の挑戦であった。

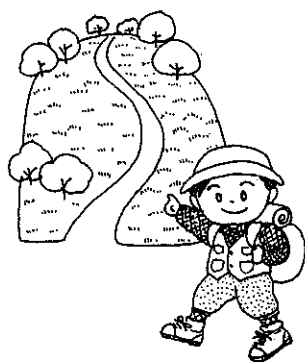
平成八年は一月十五日にスタートをした。春先は沿道の桜、フジの花が咲き、コナラ等の落葉広葉樹の新芽が吹き、新緑がまぶしく感じ、ウグイス等の野鳥のさえずりもよく聞こえた。初夏にはアジサイ、エノキの花が咲き、ヤマモモも熟し、季節の移り変わりを感しながら七回挑戦した。

しかし、平成九年は九回挑戦したが、平成十年は秋一回、昨年は五月と十一月の二回となり、人に自慢できるようにならなくなった。

この眉山ウォーキングは、中高年のグループ、ジョギングしている人、クラブ活動のトレーニングをしている学生、時にはハイキングを楽しんでいる家族連れ、夏休みには捕虫網

を持った子供たち、秋には歩こう大会の参加者など色々な人たちと出会います。

みなさんも、徳島市内から身近に行けて、手軽なコースとして「西部公園パークウェイ」を利用して眉山ウォーキングを楽しんでみてはいかがでしょうか。





**徳島**  
森林教室  
「森と人のきのう」  
きょう・あした「開催

心配していたお天気にも恵まれ、五月二十八日、神山森林公園にて森林教室が開催されました。参加者は吉野川を表現する創作ダンスグループ「ときめきダンスカンパニー」四国」の会員六十三名で、今回、川の源は「森」にあることから「森」をイメージしたダンスをするために「も」と森のことを知りたい」という希望から行われました。

森林・林業に関してはほとんどが初心者ということだったので、森を感じて森を知ってもらおうと森林散策や林業作業体験を行いました。皆、間伐・枝打ちの実演や玉切り体験、知らなかった樹木との出会い、森の香り・色などに終始感動しているようでした。

今回の「森林・林業体験の感動」と「森林と人の大切な関係」がダンスを通じてたくさんの人に伝わってもらえればと期待しています。

徳島農林事務所 松村俊憲



**阿南**  
中学生と  
炭づくり挑戦

去る二月二十二日、木頭村の木頭中学校において、炭焼きの体験学習が行われました。

主催は木頭村林業振興会（橋本会長）で、昨年からスギの間伐材などを使った炭づくりに取り組んでいます。

当日は、生徒ら二十数名が参加し、グラウンドへドラム缶三個を設

置き、スギの間伐材と竹を原料に炭づくりを行いました。

生徒たちも積極的に参加し、ドラム缶の回りを土で固める作業を泥だらけになりながら熱心に行いました。

窯出しも会員の指導の元、生徒が行い、できた炭はバーベキューに使うということで、料理の味も格別なものとなるでしょう。

今後木頭村林業振興会は、地元への貢献を目指して事業展開する計画で、その活動が期待されます。

阿南農林事務所 吉永 亨



**日和佐**  
列状間伐研修会

列状間伐の効率性を広く知っていただくために、平成十二年三月三日、海南町小川の山鳥・桑原団地において、素材生産者など林業関係者三十五名の参加のもと、列状間伐の研修会が行われました。



この間伐現場では、グラップルにウインチを付けたスイングヤーダを使い、二列伐採し四列を残す、いわゆる「二伐四残」の間伐を行いました。林令約三十年のスギ林であり、間伐率は約三三％です。作業道までの引き上げ作業により集材を行いました。

作業はスムーズに行われ、この方

法の効率性が実感できたようです。

今、海部郡では、三十年生以上の間伐対象林分が多くあり、間伐材を有効利用するとともに、林道、作業道の整備と併せ、効果的な林業機械と育林方法を組み合わせた効率的な作業システムを取り入れる必要があるといえるでしょう。

日和佐農林事務所 徳永 章

### 池田 山城町に集成材 加工施設完成

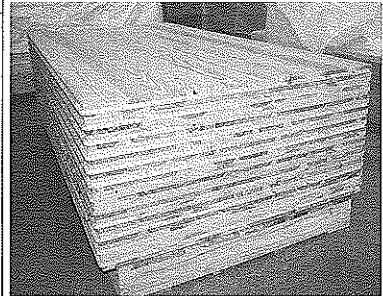
補助施策を導入し、山城町が整備をすすめていた集成材加工施設（山城パネル工場）がこのほど完成しました。

レオマ高原ゴルフ場の近くにできたこの施設は、間伐材を始めとした地元の豊富なスギ資源を活用し、付加価値の高い集成材（三層クロスパネル）を生産するものです。三十六ミリの厚さをもつ「やましろパネル」は、寸法安定・強度などの性能に優れ、住宅品質確保法も視野に入れた新たな建築部材と考えています。

「自宅の建築を予定されている方、やましろパネル」の活用について検

討してみませんか。

池田農林事務所 安丸浩志



### 脇町 やまぶき会 秋田見聞紀行

平成十二年六月九日から十一日までの二泊三日の行程で、やまぶき会の先進地視察研修に同行しましたので、その内容についてレポートさせていただきます。まず「やまぶき会」とは、会長天田テルさんを中心とした女性林研グループで、一言で申し上げますと、「清く、正しく、美しく」とい、「強く、明るく、たくましく」をモットーとした、笑顔と笑い声の絶えない仲間達といった感じですよ。

九日の早朝、高松空港を発った

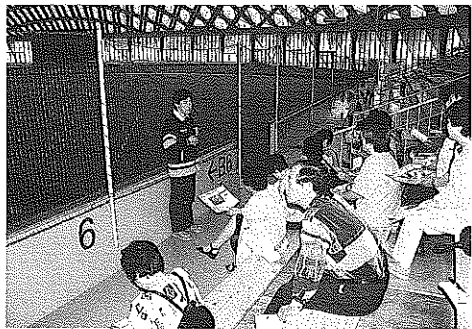
我々総勢二十名は、青森空港に向かいました。活発化した梅雨前線の影響で、強風のため、羽田からの離陸が遅れ、また、青森空港では濃霧のため、着陸許可が下りず、上空を旋回し続け、約一時間半遅れで青森に到着しました。その後八甲田山経由で、奥入瀬渓流に向かったのですが、この時間の遅れにより、奇跡的に晴れ間に当たり、東北自然遊歩道を散策することができました。後で聞いた話によると、一時間後に奥入瀬に到着した団体は、突然の降雨でずぶ濡れになり散策どころではなかつたそうで、「やまぶき会」は、強運も持ち合わせていることを実感いたしました。

この後も持ち前の「晴れ女」ぶりを披露し、日本全国雨天の中、秋田県地方のみ晴天が続き、地元秋田杉を使った世界最大級の木造ドーム「樹海ドーム」と樹高五十八mの日本一の天然秋田杉「キミマチスギ」を視察することができました。

帰路につき、夢うつつの中、現実に引き戻したのは、会長テルさん的一声「連絡事項、二十五日選挙後に中尾山の下刈りに参加すること。」、木屋平村の林業の明日は明るいと実

感した瞬間でした。

脇町農林事務所 井関廣幸



### 脇町 簡易作業道・列状 間伐研修会開催

三月十六日（木）、一字村森林組合、一字村林業研究クラブの共催で、研修会を実施しました。（参加者二十四名）

午前中は、降りしきる雨の中、一字村実平の太合実平線林道沿いの現地（三十五〜四十年生スギ林）において、上勝町森林組合の関さんや講師に招き、簡易作業道開設にあたって注意する点、バックホーを使っ

の開設方法について指導を受けました。

今後、間伐を推進するためにも、簡易作業道の開設は、必要不可欠です。

午後から、一字村葛籠の青年の山（三十五年生スギ林）において、主に三残一伐タイプで列状間伐を実施しました。一列に順番に伐倒していくため作業の能率もよく、また、かかり木がほとんどありませんでした。

参加者の中からは、列状間伐のモデル林を、道路沿いに作って欲しいとの意見もきかれました。

今後、更に列状間伐についての、認識を深めてもらい、効率的な間伐を推進されるよう期待します。

脇町農林事務所 宇野元博



## トーク&ダンス&コンサート HARMONY…森そして川から海へ

ご案内

ときめきダンスカンパニー四国(代表四国大学教授田村典子)による森林をテーマにした創作ダンスゲストとゲストの俳優柳生博、歌手堀内佳とのトークを交えたイベントを開催します。森林と人との新しい共生のあり方を考えてみませんか。

と き: 平成12年8月19日(土) 14:00~17:00

と ころ: 鳴門市 鳴門市文化会館ホール

入 場 料: 無料です。(森林づくりのためのチャリティーにご協力ください。)

※入場券をご希望の方は、林業振興課 緑化・交流担当(☎088-621-2482)まで。